

エレミヤが召命を受けたのはヨシヤ王の治世の第 13 年、即ち 626 BC であり、ゼデキヤ王の治世 11 年、即ちエルサレム陥落、神殿破壊の 587 BC まで預言活動を続けたと記されています。エレミヤは 10 代で預言を始め、50代後半までの 40 年間、働いたこととなります。苦難の 40 年と言いますが、エレミヤが苦難の中を歩んだだけでなく、ユダ王国もヨシヤ、ヨアハズ、ヨヤキム、ヨヤキン、ゼデキヤの 5 人の王も悲惨な歩みを続けたことが分かります。

|   |
|---|
| ヨシヤ 640-609BC   |
|    |
| ヨアハズ 609BC  |
|   |
| ヨヤキム 609-598BC  |
|  |
| ヨヤキン 598BC  |
|  |
| ゼデキヤ 597-587BC  |
|  |

ヨシヤは父アモンが家臣達の謀反によって殺害された後、8 歳で即位しました。ヨシヤは偶像礼拝にふけた父の轍を踏まぬ様、大祭司の指導の下、父祖ダビデの神を求める純真な信仰に生きました。また、即位 18 年目に神殿改修の折に、律法の書が発見され、神の裁きの言葉に驚愕し、宗教改革を断行しました。各地の高台の偶像を倒し、エルサレムで盛大な過越祭を開きます。けれどもそれは強大な王権によるものでした。エレミヤは召命の最初から **ユダの王やその高官たち その祭司や国の民に立ち向かわせる(1:18)** と告げられ、民とかけ離れた治世に異議を唱えています。アッシリアを倒したバビロンが台頭し始め、きな臭くなります。たまたまエジプト王ネコが進軍し通過しようとした時、ヨシヤはこれを許さず戦いを挑み、逆に戦死してしまうのです。

息子ヨアハズが民に選ばれ王となりましたが、エジプト王ネコによって幽閉され、科料を要求されました。ヨアハズはエジプトに連行され、殺害されました。ネコはヨアハズの異母兄弟であるヨヤキムを代わりに王としました。ヨヤキムは科料を支払うため、民に多額の税を課しました。

エレミヤは神殿の門で語っていましたが、ヨヤキムの治世になって、庭に入って**この都は荒れ果てて、住む者もいなくなる(26:9)**と語り始めます。エレミヤと同じ言葉を語っていた預言者ウリヤはヨヤキムに殺害されました。保護する人がいて、エレミヤは逃れられました。ヨヤキムは自分のために広い宮殿を建て、無実の人の血を流し、虐げと圧制を行っていると言います。ヨヤキムの死体は投げ出されて、**昼は炎熱に、夜は霜にさらされ、死を悼む者はない**と語っています。

ヨヤキムの死後、息子ヨヤキンが 8 歳で即位した後、3 カ月ほどしてネブカドレツアルがやって来て、バビロンの捕囚としました。母、王妃たち、有力者たちをも連行し、神殿の祭具類も奪われました。

ネブカドレツアルはヨヤキンに代えて、エジプトに連行され、殺害されたヨアハズの実弟ゼデキヤを王としました。エレミヤはゼデキヤの治世の初めに、**バビロンに歯向かわず、従え。やがてバビロンにも終わりの時が来る。あなたも民も生き延びる道を求めよ**と「軛を負え」と預言したのです。エレミヤの言葉を求めるゼデキヤでしたが、それ以上にバビロンも信じられず、さらに既に捕囚の民となった同族からなぶりものにされることを恐れ、あくまで

もバビロンに抵抗し、強情になります。やがてバビロン軍に都を包囲され、3 年間籠城しましたが、食糧が尽き、都の一角が破られ、逃走したものの捕縛されました。エルサレムは陥落しました。ネブカドレツアルの軍隊はゼデキヤの前で彼の王子たちを殺し、彼の両眼をつぶし、バビロンに連れていきました。ヨヤキンだけが捕囚後 37 年目に恩赦を受け、バビロン王宮で余生を生きたと記されています。